

酒々井町

郷土研究会会報

第131号

平成21年1月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

謹賀新年

己丑 元旦



年頭にあたつて

酒々井町郷土研究会

会長 岡田 利光

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お変わりなくご健勝にて平成二十一年(己丑)の新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。旧年中の当会の活動を顧みますと、

会員の皆様のご協力と運営委員の尽力により、予定していた事業を実施することができました。ここに、深く感謝し厚く御礼申し上げます。

また、昨年は、町主催の「ふるさとガイド養成講座」と「歴史学習講座」への講師派遣と、国史跡指定十周年

記念行事への参画などで、町へ積極的に協力することができ、大変意義ある年でもありました。

さて、新しき年の活動について、我々は郷土の歴史・文化の研究と継承そして会員相互間の親睦を活動の根底においておりますので、引き続き「郷土史講座」、「町内史跡巡り」、「史談会」などの学習・研究及び「県外見学」、「日帰り見学」、「名勝探訪」などの、研修会を行っていきたいと考えております。また、野草部門では、人気の「七草粥を食べる会」、春秋の「野草観察会」等も例年通り行います。その他本年は、「展示会」を

総会のご案内

郷土研究会の第三十三回定期総会を平成二十一年一月二十五日(日)午後一時三十分より中央公民館研修室において開催いたします。

会員の皆様におかれましてはお忙しいこととは存じますがご出席くださいますようお願い申し上げます。

工夫して実施する予定であります。会員の皆様方のご協力を得ながら愛される郷土研になるよう努めてゆく所存でありますので、ご意見・ご希望をお聞かせ頂き更なるお力添えを賜りますようお願いいたします。

地球温暖化の影響からか、暖冬と云われてはおりますが、寒さはこれからが本番となります。皆様には一層健康にご留意されまして、先ずは定期総会、七草粥を食べる会等にご出席頂きますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

私と本佐倉城跡

酒々井ふるさとガイドの会

会長 山本 孝一

私が初めて本佐倉城跡を訪れたのは、今から二五年程前に酒々井町に引越して間もない頃であつたと思ふ。次に訪れたのは、平成十九年九月であつた。動機は中央公民館が開講した「酒々井町ふるさとガイド養成講座」を受講することになり、必要に迫られ、二度目の訪問をした。以降、訪れる度に新たな感動が生まれてくる。この講座では郷土研究会のすばらしい先生と同期生に恵まれ、歴史に無知であつた私も大いに

興味を持つことができた。

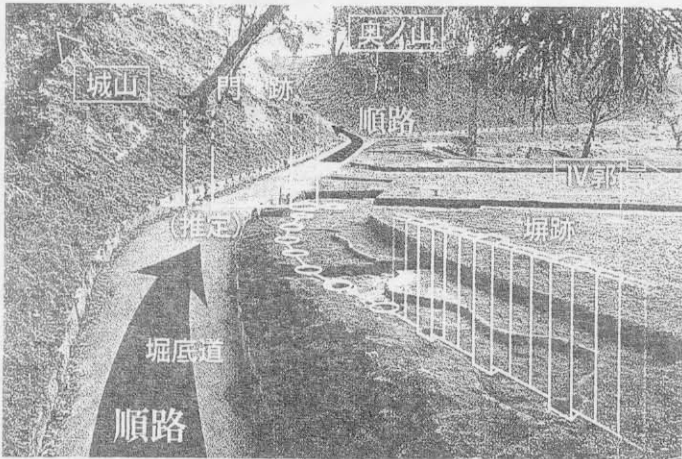
平成二十年九月にはこの講座も終了し、十一月には卒業生一同で「酒々井ふるさとガイドの会」を立ち上げた。このガイド活動を通じて、すばらしい本佐倉城跡の歴史と景観を知ることができた。

思えば、桓武平氏の高望王が、寛平元年（八八九）に上総国に国司として下向してから、坂東平氏達は「平将門の乱」「平忠常の乱」を経て千葉氏となり「享徳の乱」「小田原の役」と続き、本佐倉城の開城へと進み、七百年に及ぶ歴史の幕を閉じた。この流れの中で歴代の城主は何を考へ、何を思つてその時代を過ごしたのか？目まぐるしく変わった戦国の世に思いを馳せるとき、今でも世界各国で覇権を賭けた争いが繰り返されている様を重ね合わせてみるのは私だけでしょうか？

私がこの城跡を訪ねる道順は、まず内郭群の裾野を回って東光寺ピョウ側から東山虎口に入り東山に登る。すると眼前に干拓された水田が広がり、遠くに筑波山が、更に遠くに日光連山の男体山が見える。この風景を見ると一瞬大らかな気持ちに

なれる。

千葉氏に城の頃は、東山の麓近くまで印旛沼の渚が迫り、春夏秋冬すばらしい景観であったと、小畑良夫著『臼井城物語』に記されている。東山を下り、正面を見ると城山に続く急な小道が右に曲がって大堀切に続いていく。この道の左側は急勾配で切り岸に似た斜面で城山を防護している。大堀切を通って城山に登ると、今来た東山虎口の屈曲した構造や東山一体が一望でき、城郭の構造がよくわかる。



築城の頃は、内郭群の周囲は印旛沼が三方を取り囲み、天然の水堀となつて城を守っていたと思われる。また、各々の郭は帯郭や腰郭を巡らし空堀、土塁で防御した戦国時代の平山城の特徴をよく表している。このように本佐倉城跡は色々な想像を抱かせてくれるすばらしい城跡である。

「新宿御苑方面」

を採訪して

箕輪 光正

九月九日、通勤時間帯をやや避けた八時四三分、京成酒々井駅へ八幡駅乗換え都営新宿線新宿三丁目駅下車、参加三三名、雲一つなく好天に恵まれた名勝探訪の研修であった。

下車駅から数分で高層マンション・ビル群の繁華な位置に約四百年前創建の浄土宗太宗寺に参詣する。境内に入り直ぐ右側には都文化財指定で江戸六地藏の第三番として約三百年前に建立、銅造地藏菩薩坐像が台座一・六七米、高さ二・六七米の威容で我々を迎えてくれた。他に木造閻魔像・木造奪衣婆像・切支丹灯籠・内藤正勝の墓・銅造三日月不動像があり、いづれも区指定の



新宿御苑の日本庭園

文化財となつてゐる。また布袋尊像、塩かけ地藏尊も順序良く並び整頓されてゐる。

久し振りに電車に揺られてきたせいか空腹を覚える頃、当寺の近距離にある新宿御苑に向かう。

苑内に入ると会長の解散宣言を受け、それぞれ昼食となつた。

都会のカラスはお利口なのか？我々三名が木陰のベンチで昼食を始めると同時にじつと樹上から見下ろしているカラスが三羽、一口、二口、弁当を投げ与えるとスツと降りてきておこぼれにありつき、あとははずつ

とおとなしく、そしてスツと姿を消して一寸気味が悪い感じがした。

食事の後は、十八万坪と広大な御苑内の散策を楽しんだ。手入れの行き届いた芝生の上は殊のほか心地よかつた。

行く夏を惜しむように芝生のあちこちでは若者たちが日光浴を、またイギリス風景式庭園とフランス式整形庭園ではイギリス人か又はフランス人らしき年配のご夫婦が仲睦まじくゆつくりと歩を進められていた。

今日は森林浴と日光を身体一杯に受け、思いっきり癒された一日であつた。

《観察メモ》

「タコノアシ」(タコノアシ科)

漢字で「蛸の脚」。茎の頂部に放射状に伸びる枝に並んで付く小さな花をタコの脚と吸盤に見立ててゐる。

花弁は無く、萼は五裂になつてゐる。休耕田や湿地等止水環境に自生。夏から秋にかけて花が付き、十月上旬頃ピンクから赤色になり、ゆでダコのように紅葉します。気候により色づかず枯れて茶色になつてしまふ年の方が多い。今年の秋、酒々井では

見事に茹で上がったタコノアシを久々に観察することができました。

全国的には絶滅危惧植物になつてゐます。町内でも新たな場所になつてゐるのが確認されたり、環境の変化等で群生地が一年で消滅してしまつたりしてゐます。



郷土研

トビックス!

★郷土研の長年のサークル活動に対し、文化の向上に多大な貢献があつたとして酒々井町文化協会より表彰を受けました。

会計報告

千葉方面(平成20年10月30日)
 参加者32名 会費2,000円
 収入 2,000×32=64,000円
 64,000円

支出
 昼食代 49,600円
 入場料 1,600円
 諸雑費 4,496円
 計 55,696円
 64,000-55,696 = 8,304
 8,304円(研修会会計)

四十年前へタイムスリップ

御園生 浩士

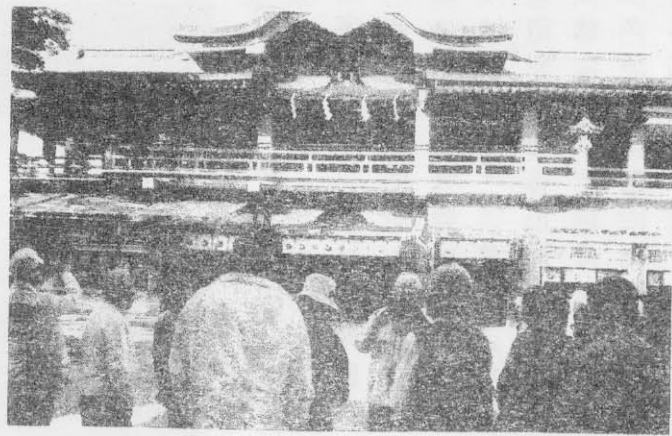
今日は雨が降るのかな、と予感させる厚い雲空の朝でした。昨日はこの冬一番のマイナス三十度のシベリア寒気団が、北海道・東北地方を覆ったせい「寒い」の一言が挨拶代わりに交わされる公民館前でした。

寺本さんのガイドのもと国道五十一号線を一路千葉氏縁の地、千葉寺へとバスは出発しました。車中の様子はさすが郷土研の面々、今日の旅程や見学先の縁起、謂われの話をしていました。車窓より目に映るのは、鮮やかな青のシートに頭が被われた落花生のポッチが点在する風物詩。遠くには山武杉を屏風にした柿の木が、頬を秋色にそめた実をたわわにつけ、豊作を告げる風景でした。

四街道から千葉市内に入り、近代的な青葉の森を抜け千葉寺に到着しました。境内の大イチョウは県の天然記念物で自然の大きな営みを感じました。

落葉を踏みバスのステップをあがり千葉城へと走りました。子供の頃、遊び場として崖や土塁を駆けずりまわっていました。四月の花見の頃は、

屋台が所狭しと軒を連ね、小遣いを握り締めて色々見えてまわった思い出があります。



千葉神社

猪鼻に着くや眩しい陽の光「千葉の祖は今何を想うや」郷土館をあとに千葉神社へと進みます。言わずと知れた千葉氏の守護神である妙見菩薩を本尊とする神社です。我家では、千葉氏にあやかり七五三のお参りに訪れます。お祓いのあと千歳飴の袋を下げ、近くの写真館で記念撮影するのが慣わしでした。もう一つの楽しみが、向かいの和菓子屋で豆

大福を買ってもらったことでした。皆さん豆大福のお味は如何でしたか。家へのおみやげも買い、バスは帰路につきました。

私は初めての参加でしたが皆さんの気さくさで郷土研のメンバーとして楽しく過ごすことができました。皆さんお疲れ様でした。そしてありがとうございます。

七草粥を食べる会

野草部

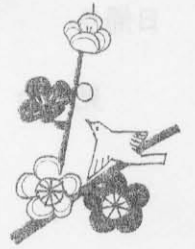
正月六日の宵に、御台所掛が紋付小袖に麻上下を着て、唐土の鳥の渡らぬ先に恵方に向かい若草を打ちやす。ストントンと戸々に響き、門の松飾り、しめ縄を取払い翌日は七種の若菜の粥を食べる祝いの日と書かれていた七草粥。江戸時代から五節句の一つとして欠かすことのできない行事となっている。

今年の旧暦の一月七日は二月一日ですが、郷土研では二月十三日に「七草粥を食べる会」を開催します。

当日は、公民館調理室で大鍋いっぱい七草粥が大勢のお手伝いの方々の手により炊きあげられます。勿論酒々井の内で摘んだ七草です。

見学

案内



日帰り見学会

初詣 香取方面

一月十三日(火)

雨天代替一月二十一日(水)

初詣は香取神宮です。下総国一宮で旧社格は官幣大社。日本全国に約四百社ある香取神宮の総本社です。「延喜式神名帳」によると伊勢神宮・鹿島神宮・香取神宮の三社だけが「神宮」と呼ばれています。荘厳な本殿に参拝し、自由昼食となります。名物の草団子を食べてみるのもいいですね。帰りには佐原に寄ります。多数ご参加ください。

名勝探訪

市川真間方面

三月十日(火)

雨天代替三月十一日(水)

真間は奈良時代から、都にも知られていたところで、美少女「手古奈」の伝説に纏わる霊地。弘法寺は、天平九年に僧行基が当地を訪れ「手古奈」を供養するため一堂を建立したのが始まりで、現在は日蓮宗。伏姫桜と呼ばれる枝垂れ

桜も有名。

里見公園は、戦国時代に里見氏と後北条氏の間で二度にわたる国府台合戦が行われたところ。下総国分寺は、聖武天皇の詔勅により鎮護国家を願って建立されたお寺で、奈良時代には地方を統治する象徴として栄えました。

現存する建物は昭和になって再建されたものですが、創建当時の状況

がおよそ判ります。

国分寺が法隆寺様式の伽藍配置であったのに対して国分尼寺の方は東大寺様式だったようですが、現在は小さな公園になっていて場所を見つけるのが結構大変です。春の一日、昔を偲びながら、皆で散歩してみませんか。

訃報

前監事の櫻井徳三氏には、かねてより病氣療養中のところ、十一月三日ご逝去されました。(享年八十二歳) 長らく郷土研究会の運営にご尽力いただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

あとがき

会報誌面充実を図るため水面下の苦心も、ご無理を承知の上でお願いする諸記事を提供・寄稿して下さい。新しき年の方々の協力により、新しい年の始めに会員の皆様へ第一三一号としてお届けすることが出来ました。

昨年、本佐倉城跡国指定一〇周年、町立酒々井小学校創立一〇〇周年、文化協会創立二五周年、また、本年酒々井町町制一二〇周年と祝い事が

重なり合いの明け暮れになり、郷土研究会でも一分野参画いたしました。これからも皆様のご支援のほどお願い申し上げます。

<郷土研日誌>

月日	内容	参加者
9.25	会報印刷	4
9.27	会報発送(130号)	17
9.30	野草観察会(尾上)	15
10. 4	勉強会	12
10. 7	日帰り見学会・受付、下見	4
10.21	史跡勉強会(新堀河岸他)	9
10.26	国指定十周年記念(ガイド)	10
10.30	日帰り見学会(亥鼻城)	32
11.18	研修部会	7
	会報編集会議	4
11.26	運営委員会	17
12. 3	名勝探訪(江戸東京博物館)	24
12. 6	会報編集会議	4
	史談会(和田のむかし⑭)	9
12.12	会報編集会議	4
12.16	野草部会	5
	会報編集会議	4
12.21	会報編集会議・校正	4
12.24	会報編集会議・最終校正	4



郷土研行事案内

平成21年1月～3月

<p>史談会</p>	<p>1 月 休</p>	<p>2 月 7日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑬ 講師：高橋健一先生</p>	<p>3 月 7日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑬ 講師：高橋健一先生</p>
<p>日帰り 見学会</p>	<p>「香取方面」・初詣 1月13日(火) 雨天代替日 1月21日(水) (当日の間合せ 7:00～7:50 寺本まで 参加費 100円 その他 昼食は、神宮の参道入口周辺で自由に食べましょう 集合時刻・場所 8:30 JR酒々井駅・構内改札口前(階段上) コース JR酒々井駅—JR香取駅…香取神宮…《神宮前商店街で自由昼食》 =(バス)=JR佐原駅…佐原市内散策…JR佐原駅—JR酒々井駅 15:30頃 帰着予定 (場合によりコース変更あり)</p>		
<p>野草の会</p>	<p>「七草粥を食べる会」 2月13日(金) 会場 中央公民館講堂(受付 11:00/会食 11:30) 定員 70名 会費 800円 申込受付 参加ご希望の方は、最寄りの運営委員にお申込み下さい。 なお、総会当日(1月25日)1階ロビーにても受け付けます。 ◎当日、お手伝いして下さる方は、9:00頃 中央公民館・調理室にお出下さい。 * 間合せ 犬島まで なお、当日、平成18年春以降の「野草観察会の資料」を展示しますのでご覧下さい。</p>		
<p>名勝探訪</p>	<p>「市川方面」 3月10日(火) 雨天代替日 3月11日(水) (当日の間合せ 7:00～7:30 岡田まで 参加費 100円 その他 弁当、飲み物、敷物等は各自ご持参下さい。 集合時刻・場所 8:20 京成酒々井駅・構内改札口前(階段上) コース 京成酒々井駅—市川真間駅…手児奈霊堂…弘法寺…里見公園《昼食》 …国分寺・国分尼寺…市川真間駅—京成酒々井駅 16:00頃 帰着予定 (場合によりコース変更あり)</p>		
<p>第33回 総会</p>	<p>1月25日(日) 中央公民館研修室(2階) 受付は、1階ロビー 受付 13:00 開会 13:30 年会費 1,000円をご用意下さい。 《議題》 ・平成20年度事業報告及び決算の承認について ・平成21年度事業計画及び予算案について ・その他</p>		